

## ◇しづおか就職氷河期世代活躍支援プラットフォーム事業実施計画における目標及び令和6年度の実績・評価

支援対象	目標および目標値（2年間）	令和6年度における評価	事業計画に記載されているKPI	令和6年度におけるKPIの進捗状況	KPI進捗状況の評価結果
不安定な就労状態にある方	正規雇用を希望しているながら不安定な就労状態にある方にについて、現状よりも良い処遇を目指すため、支援対象者の正規雇用者数を増やすことを目標とする。	○ハローワークに設置したミドル・チャレンジコーナー（就職氷河期世代相談窓口）でのチーム支援の実施、限定・歓迎求人の確保、助成金制度の活用等の取組を進めた結果、ハローワーク紹介による正社員就職件数のKPIは、達成率134.5%に到達した。また、助成金活用による正社員転換数のKPIは、達成率87.5%となつたが、令和6年度の単年度で見ると、2年間の目標値の51.9%に到達している。 ○「しづおかジョブステーション」に関するKPIのうち、就業者数のKPIは達成率105.0%となつた。一方で、就職氷河期世代支援サポーターが行う相談件数のKPI達成率68.1%と目標に到達しなかつたため、関係機関との連携を一層強化しつつ、増加傾向にある在職求職者の相談件数を確保していく。	①ハローワーク紹介による正社員就職件数（就職氷河期世代）：2年間で5,000件 ②キャリアアップ助成金による正社員転換数：2年間で5,260人 ③「しづおかジョブステーション」で支援した就職氷河期世代の就業者数：2年間で360人 ④しづおかジョブステーションに配置した就職氷河期世代就職支援サポーターが行う相談件数：2年間で6,600件	①令和6年度の正社員就職件数は3,457件（令和5年度は3,267件）であり、2年間で6,724件とKPIを達成し、達成率は134.5%となつた。 ②令和6年度のキャリアアップ助成金の正社員転換数は2,732人（令和5年度は1,868人）であり、2年間で4,600人とKPI達成には至らなかつた。達成率は87.5%であった。 ③令和6年度の「しづおかジョブステーション」で支援した就職氷河期世代の就業者数は184人（令和5年度は194人）であり、2年間で378人とKPIを達成し、達成率は105.0%であった。 ④令和6年度の「しづおかジョブステーション」に配置した就職氷河期世代就職支援サポーターが行う相談件数は2,231件（令和5年度は2,262件）であり、2年間で4493件とKPI達成には至らなかつた。達成率は68.1%であった。	①KPIの達成状況からも目標に向けた取組は順調に推移してきた。令和2年4月から、ハローワーク静岡・浜松に設置している「ミドル・チャレンジコーナー（就職氷河期世代専門窓口）」でのチーム支援の取組等により、成果が出たものと考えられる。 ②KPIは未達成となつてはいるが、令和6年度の単年度で見ると、2,732人となり、令和5年度の進捗状況を大きく上回つてはいるため、一定の周知効果が出ていているものと考えられる。事業主から従業員の走行について相談があつた際のみではなく、能動的に人手不足分野などを中心として雇用管理改善指導など必要な支援を行つとともに、本助成金の周知を徹底する。 ③KPIの達成状況からも目標に向けた取組は概ね順調であった。引き続く人手不足を背景とした企業の底堅い採用意欲があることや、イベントとしてマッチング会・セミナー等を開催するなどにより利用者の就業意欲を高め、就業者数の達成につながつたと考えられる。 ④KPIは未達成となつてはいる。その理由として、企業の人手不足感を背景として、売り手市場の様相がより顕著となってきたことで、多様化している民間需給調整機関を通じてのマッチングが増加していることで、窓口での相談件数が減少したことが一因として考えられる。そのため、関係機関との連携を一層強化しながら、増加傾向にある在職求職者の相談件数を確保していく。
長期にわたり無業の状態にある方	就業を希望しながら、様々な事情により求職活動をしていない長期無業の状態にある方については、働くことや社会参加を促す中で本人に合った形で支援を行う必要があることから、地域若者サポートステーションを中心に、関係機関と連携しながら職業的自立につなげることを目標とする。	○サボステの支援について、特設ホームページやオンライン説明会等によるほか、企業向け及び求職者向けのセミナー（サボステの周知もメニューに含む）への積極的な説明を行い、また、YouTube動画、駅構内サイネージ広告、電車中吊り広告、商工会議所等の会報誌への企業向けチラシの折り込み広告等により周知を図つたが、新規登録者数のKPIの達成率は72.6%、サボステの支援により就労につながつた件数のKPIの達成率は86.7%となり、2項目ともKPIの達成には至らなかつた。そのため、YouTube動画の追加、アウトリー型支援の強化等により、サボステの周知等の取組の広報を強化し、新規登録件数を確保するほか、市町及びハローワークとの一層の連携強化を図り、サボステ職員の支援スキルの共有及び向上を図ることを検討する。	①サボステへの新規登録件数：2年間で1,200件 ②サボステの支援による就労につながつた件数：2年間で720件	①令和6年度のサボステの新規登録件数は437件（令和5年度は434件）であり、2年間で871件とKPI達成には至らなかつた。達成率は72.6%であった。 ②令和6年度のサボステの支援による就労につながつた件数は344件（令和5年度は280件）であり2年間で624件とKPI達成には至らなかつた。達成率は86.7%であった。	①KPIは未達成となつてはいる。その理由として、施設やサービスについての認知不足や、雇用情勢の改善に伴い、従前からの利用者の就職意欲が高まり、サボステにおいて一時的に継続相談及び定着支援に力点を置かざるを得ない状況があつたことから、新規の取組が低調となつた要因と考えられる。 今後は、オンライン説明会やホームページ等による周知に加えて、既存のYouTube動画を追加、出張相談などのアウトリー型支援の強化、関係機関が主催するセミナーの日程を在職者が参加しやすくなるよう調整の上でサボステのサービスを周知するなど、取組を強化していく。 ②KPIは未達成となつてはいるが、令和6年度の単年度で見ると、344件となり、令和5年度の進捗状況を大きく上回つてはいるため、一定の取組効果が出ているものと考えられる。 今後は、関係機関との連携を一層強化して、広報に関する取組を実施するとともに、本省が開催するサボステのブロック研修に参加し、サボステ間でも連携して支援スキルの共有及び向上を図ることができる体制の構築を目指していく。
社会参加に向けた支援を必要とする方	支援対象者やその家族の実態やニーズに応じた、就労に限らない多様な社会参加に向けた支援を可能とするため、市町レベルのプラットフォームにより、支援体制の充実を図り、支援対象者と社会のつながりが生まれることを目標とする。	○専門的見識を備えるアドバイザーを、希望があった市町に派遣して助言支援、研修会の開催など、市町におけるひきこもり相談支援体制の整備を行つた結果、KPIである「居場所」の利用者数及びアドバイザー派遣回数は目標を大幅に達成しているため、支援体制の構築は順調に図られているものと考えられ、引き続き周知を図つていく。	①就職氷河期世代の引きこもり状態にある人の「居場所」利用者数：2年間で590人 ②市町のひきこもり相談支援体制整備にかかるアドバイザー派遣回数：2年間30回	①令和6年度の就職氷河期世代の引きこもり状態にある人の「居場所」利用者数は984人（令和5年度は968人）であり、2年間で1,952人とKPIを達成し、達成率は330.8%となつた。 ②令和6年度の市町のひきこもり相談支援体制にかかるアドバイザーの派遣回数は26回（令和5年度は24回）であり、2年間で50回とKPIを達成し、達成率は166.7%となつた。	①KPIの達成状況からも目標に向けた取組は順調に推移してきた。成果が出た理由として、インターネットによる検索連動型広告、ひきこもりに関する当事者・家族・市民向けの講演や研修等で支援情報を案内し、専門的知見を備えるアドバイザーを派遣して、相談支援体制の整備を支援したことが考えられる。引き続き、周知及び個別支援の取組を進めていきたい。 ②KPIの達成状況からも目標に向けた取組は順調に推移してきた。成果が出た理由として、32市町参加による「ひきこもり支援体制構築のための市町会議」を開催して周知を図り、インターネットの検索連動型広告により相談窓口等のひきこもりに関する支援情報を案内したことが考えられる。引き続き、周知及び個別支援の取組を進めていきたい。